

## 第20回放送番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成26年1月22日 18時30分開始
2. 開催場所 FMぎんが2階 会議室
3. 委員の出席  
委員総数 8名  
委員出席 4名  
出席委員の氏名 中間隆志委員 加藤俊文委員 藤崎剛委員 吉見満雄委員  
放送事業者側出席者 中崎宗治代表取締役社長 中崎啓文局長 濱田英作
4. 議題 ①新番組『鹿児島ファンタスティックくろけんのタノバカラジオ』に関する意見交換  
②新番組『鹿児島ファンタスティック Rock To The Future』に関する意見交換
5. 議事の概要  
新番組に関する意見交換を行った。
6. 審議内容  
中崎局長 新番組に関する意見交換を行います。まずは『鹿児島ファンタスティック くろけんのタノバカラジオ』に関してご意見を頂きます。  
  
濱田英作 詳細を説明し、実際の番組音声を聴取した。  
鹿児島で活動するお笑い芸人のくろけんより持ち込み企画で提出された企画書を、弊社の制作基準や目指す放送に合致するようなところですりあわせを行い最終的な番組内容を決定した番組である旨を説明した。  
  
吉見委員 若者独特と思える表現があったが、シニア世代の方々には少々抵抗のあるような言葉づかいや表現があるが、ターゲットとしている世代の方々がこういった言葉使いや表現を聞いたときに抵抗はないのか？  
就職を取り扱ったコーナー企画はよい内容であると考えます。そういった悩みも扱えるといいのでは？次に出でてくる職業や人を予告で匂わせるといいのではないのか？  
  
濱田英作 言葉使いや表現に関しては、今回聞いていただいた中のものは、ターゲットとしている世代が一般的につかう表現や言葉使いになっています。しかし、ご指摘いただいたとおり、言葉使いや表現には最大限の配慮をしていきます。

藤崎委員 耳にすんなり入ってくる言葉の分かりやすさ、テンポのよさ、伝えねばならない基本的な情報がしっかりと押さえられてるので、初めて聞いた時点でも話が上手であるという印象を受ける。

加藤委員 各曜日この時間帯の放送は、20代～30代の方々をターゲットにしているのか？  
内容に関して鹿児島弁のイントネーションが聞こえるとのおよいと感じる。就職を取り扱ったコーナーは、20代～30代だけでなく10代の目線にも訴えるような作り方がいいのではないかと。明確な将来像を描けなかったり、これから社会に出て行くことに対する不安な気持ちもメールなどのコメントを通じて引っ張り出せるような形があると、より多くのニーズに応えるような内容になるのでは？

濱田英作 局としてこの時間を20代～30代をターゲットにすると限定はしていません。しかしながら、多くの方への聞き取りのなかで、その世代がこの時間にラジオを聴く機会が多いということもあって、娯楽性の側面もある番組がこの時間帯になるケースは多くなると考えます。

中崎局長 続いて、『鹿児島ファンタスティック Rock to The Future』に関してご意見を頂きます。

濱田英作 詳細を説明し、実際の番組音声を聴取した。  
音楽番組であること、音楽の中でもハードロック、ヘヴィメタルと呼ばれるジャンルの曲を取り扱う、専門性の高い音楽番組である旨が説明された。

吉見委員 こういった音楽性を好む希少ファン向けにということでは、よい取り組みであると評価する。さまざまなリスナーニーズを経験する意味でも挑戦する価値があると感じる。潜在的なファンを掘り起こす、人と音楽との出会いの機会の創出にもなるという。

藤崎委員 鹿児島発の番組ではないような高いクオリティ、希少ファン向けにさらなるブラッシュアップをしてほしい。

加藤委員 どうしても専門用語や固有名詞が多い内容になってしまうので、そのジャンルの経験が少ない方向けへのフォローとして、説明を多めに入れるなどで分かりやすさを求めているかどうか？

## 7. その他連絡事項

次回番組審議会を平成26年2月18日（火） 18：30よりFMぎんが2階会議室にて開催する事を確認した。

8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

- ① 自社放送：平成26年2月5日午前9時からの音楽番組の前半に特番で放送
- ② 書面の備置き：平成26年2月5日から、当該事項を記載した書面(議事録) を事務所へ備置き
- ③ インターネット：平成26年2月5日より当社インターネットのホームページに転載

以上 議事録作成 濱田 英作